HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第41号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Issue Date	2013-06-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73592
Type	periodical
Note	事務局: 北海道大学附属図書館; http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
File Information	DRFmonthly_41.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

月刊 DRF
Digital Repository Federation Monthly

第41号
No. 41　June,　2013

【特集１】ＤＲＦ 平成２５年度体制紹介 第２弾
【特集２】新参加機関紹介
【特集３】東亜図書館協会 (CEAL) 2013年年次大会ほか出席報告
-- ほか 【文献紹介】生命医学分野におけるオープンアクセスの目覚ましい進展
【新連載】かたつむりとオープンアクセスの日常

特集1

ＤＲＦ平成25年度体制紹介　第2弾

40号の企画ワーキングループ主査・副査紹介に続き、委員改選のあった運営委員会の陣容をお知らせします。

運営委員長　**新田　孝彦**
（北海道大学附属図書館長）

DRFの参加機関は、148機関となりました。
NIIのCSI委託事業は終了しましたが、DRFは引き続き情報共有活動（Wiki、Facebook、メーリングリスト、月刊DRF等）や翻訳活動を通じ、学術コミュニケーションの活性化に取り組んでいきます。
これからも、DRFの活動への積極的な参加をお願いいたします。

新　運　営　委　員　紹　介

森　いづみ（お茶の水女子大学附属図書館）

2006年11月のDRF設立から7年目の春、気持ちも新たに運営委員として参画させていただくことになりました。
これからのDRFは、どんな活動をしていくのか。皆さまと共に考え、行動したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

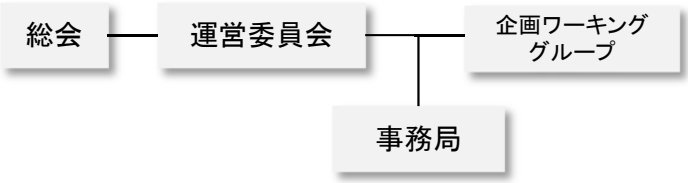
鈴木　雅子（旭川医科大学図書館）

昨年度は企画WG副査としてお世話になりました。今年は、わくわくな新企画WGを応援しつつ、運営委員会だって「みんなのDRF」を盛り上げるぞという気持ちでいっぱいです。
リポジトリをいつも楽しくさらに楽しく！

デジタルリポジトリ連合運営委員会（平成25年5月1日現在）

新田孝彦（北海道大学附属図書館長）
鈴木雅子（旭川医科大学図書館情報課長）
井上　修（東北大学附属図書館事務部長）
内島秀樹（筑波大学附属図書館情報管理課長）
杉田茂樹（千葉大学附属図書館学術コンテンツ課長）
鈴木正紀（文教大学越谷図書館館長補佐）
森いづみ（お茶の水女子大学附属図書館図書・情報チームリーダー）
甲斐重武（広島大学図書館副図書館長）

組　織（平成25年5月1日現在）



特集2

新参加機関紹介

2013年のDRF新参加機関をご紹介します。

お茶の水女子大学　教育・研究成果コレクション　TeaPot

運営体制＆導入システム

2007年4月の正式公開から、今年で7年目を迎えました。担当は志願制で、現在4名の図書館スタッフで業務を分担しています。DSpaceを利用しサーバ管理も内部で行っていましたが、2013年3月の図書館業務システムの更新を機にNALIS-Rに移行しました。

特色

IRを活用した出版支援事業として「お茶の水女子大学E-bookサービス」を2012年3月にスタートしました。未公表の学術書にISBNを付与してIRに搭載し、誰もが無料で利用できるE-bookとして専用サイトから公開しています。また、冊子体を希望する方にはオン・デマンド出版による有償販売も行っています。現在のラインナップは『古今和歌六帖全注釈　第一帖』『近世日本の儒教思想』の2冊です。

これまでさまざまな場面で支えていただいたDRFに加盟し、協働の輪に加えていただけることをとても嬉しく思っています。引き続きどうぞよろしくお願いします。

お茶の水女子大学E-bookサービス
http://www.lib.ocha.ac.jp/e-book/

Teapot
http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/

Teapotキャラクター
おかめちゃん

京都造形芸術大学

本学でも機関リポジトリを立ち上げることとなりました。DRFの皆さま、どうぞ宜しくお願いいたします。

芸術文化情報センター
http://acic.kyoto-art.ac.jp/

京都造形芸術大学
芸術文化情報センター
Art and Culture Information Center

北海道医療大学学術リポジトリ

北海道医療大学学術リポジトリは、2013年7月の公開を目指して、現在準備中です。 開設時は、本学紀要、博士論文からのスタートですが、多くの研究者に役立ち、そして、 本学の学術研究の発展と地域社会へ貢献する学術リポジトリを目指します。

写真は、2013年3月に完成した中央講義棟です。2013年4月にリハビリテーション科学部 を開設するにあたり、本学のメイン施設として建設されました。 天空にそびえる中央講義棟の10階にはビューラウンジがあり、ほぼ360度の眺望が可能です。 本学へお越しの際は一見の価値ありです。

総合図書館
http://library.hoku-iryo-u.ac.jp/

特集3

テキーラの街・サンディエゴでのCEAL年次大会ミニレポート

小陳左和子，藤村ゆか，杉岳志（一橋大学附属図書館）

4月の学内人事が今日にも解禁になろうかという3月第3週、一橋大学附属図書館の3名は、米・サンディエゴのベイサイドにある高層ホテルの会議場にいました。毎年3月末から4月初めにアメリカまたはカナダの都市で開催され、北米のアジア研究者やライブラリアンが一堂に会するAAS（アジア学会）と、それに併せて開催されるCEAL（東亜図書館協会）年次大会・NCC（北米日本研究資料調整協議会）公開会議に参加するためです。日本の図書館関係者としては以前からNIIやNDLなどから毎年参加していますが、今回は学内経費を得た我々3名を含めて日本から10人以上と、例年以上の参加がありました。

今回のCEAL大会全体に流れるテーマはオープンアクセスで、CEAL参加者（おそらく約300名）が一堂に会し1日かけて行われた総会や、その後の各ワークショップにおいて、OAに関わる話題が取り上げられていました。大会の日程や総会の講演スライドはCEALウェブサイトで公開されており、概要はNDLの篠田さんにより既にカレントアウェアネス-Eで報告されていますので、そちらを参照いただくとして、ここでは、総会の中で行われたCJKのOAに関する報告を一部紹介しておきます。

CJM（日本資料委員会）・NCC合同会議でのパネルディスカッション（土屋俊氏，大向一輝氏，佐藤翔氏）

中国のOAについては、同国のOA誌“International Journal of Agricultural and Biological Engineering”の編集長Wang Yingkuan氏が報告し、中国のOA誌はハイブリッド型が大半を占めること、政府よりも学術コミュニティがOA化を推進しており、政策面での後押しが欠けていること、著作権に対する理解が不十分なことなどを指摘しました。また、イリノイ大のJiang Shuyong氏らの調査によると、中国科学院のものが過半数を占める中国のIRは、システムが不安定でアクセス不可のものも多く、いまだ試行的な段階にとどまっているとのことです。日本については、大学評価・学位授与機構の土屋俊教授が、会費や購読料の仕組みがうまく機能しない以上、今後刊行される雑誌はOAであるべきこと、大学等の機関はIRを通じて研究成果を公表すべきことなどを指摘しました（講演の締めの言葉が「そして図書館の役割はなくなります。」と、アメリカでも土屋節は炸裂しました）。韓国については、KISTIのChoi Heeyoon氏が、OA化を積極的に推進する韓国政府の政策を紹介しました。

CiNiiやIRの出現により主に紀要論文が読めるようになったのはありがたいが査読論文の方はまだまだだし、日本の学術図書はほとんど電子化されていない、というのは海外のライブラリアンとの間でいつも話題に上ることですが、今回は特に北米の方々から、状況改善のために私たちが役に立てることはないか、日本のみなさんと一緒に何かできることはないか、と問いかけられたのが印象的でした。

先頃の学位規則改正に向けてはこれまでのIR活動の成果が原動力の一つとなったように、日本の出版社・学会や政策に影響を及ぼすような図書館の活動が今後もますます重要になる、と改めて感じた出張でした。

地ビール飲み比べセット（6種）を前に微笑む杉専門助手

写真上左：総会での講演に耳を傾ける一橋トリオ
上右：会場となったホテル「マンチェスター グランドハイアット サンディエゴ」

参考文献・情報

● 【CEALウェブサイトでの年次大会に関する情報】
http://www.eastasianlib.org/CEAL/AnnualMeeting/Annualmeeting.htm

● 【今回の大会の概要レポート】篠田麻美. 2013年CEAL年次大会・NCC公開会議・AAS年次大会＜報告＞. カレントアウェアネス-E, No.235(E1419), 2013.04.11. http://current.ndl.go.jp/e1419

● 【CEALやNCCについてもわかりやすく紹介されています】江上敏哲. 本棚の中のニッポン:海外の日本図書館と日本研究. 笠間書院, 2012, 296p.

文献紹介

生命医学分野におけるオープンアクセスの目覚ましい進展

Kurata K, Morioka T, Yokoi K, Matsubayashi M (2013) Remarkable Growth of Open Access in the Biomedical Field: Analysis of PubMed Articles from 2006 to 2010. PLoS ONE 8(5): e60925. doi:10.1371/journal.pone.0060925 http://dx.doi.org/10.1371/journal.pone.0060925

この論文は慶應義塾大学の倉田敬子先生らによる、PubMed収録論文を対象にしたオープンアクセス（OA）状況の調査結果を報告するものです。

倉田先生らはPubMedに収録された（生命医学分野の）論文からサンプルを抽出し、PMCとGoogleを用いてオンラインでの入手可否、OAか否か、その公開手段などを継続的に調査しています。調査は毎回、対象論文の出版の翌年に行なっており、今回の論文では2006年（2005年出版論文が対象）、2008年（2007年の論文）、2010年（2009年の論文）の調査結果が報告されています。

2010年の調査ではOA論文は50.2%でした。2006年調査の2倍に近い値で、OA化の進展が目覚ましいことがわかります。手段としては一貫してOA雑誌掲載論文が50%程度と多いほか、徐々にPMCで公開される論文が増えています。

機関リポジトリ等での公開は毎回、10%前後で推移しており、あまり進んでいません。

OA状況の調査は他にもありますが、結果はそれぞれ差があります。そこでこの論文ではPMCの「LinkOut」機能(*)等を使ってOA論文を探すとどうなるか、追加調査を行ない、本調査との値の違いから、調査ごとに結果が異なる理由についても考察しています。

英語論文ですが読みやすく、内容もわかりやすいものなので、詳しく知りたい方はぜひ、論文本文も読んでみて下さい。

＊LinkOut機能：出版社による情報を基に、“full-text”，“free full-text”，“free full-text in PubMed Central” というリンクを生成する機能。追加調査では、後者の2種類をOA論文としています。

新連載

かたつむりと
オープンアクセスの日常

第１回
州レベルでのパブリックアクセス

今号から隔月で連載記事を持たせていただくことになりました。筑波大学あらため同志社大学に移ってきた佐藤翔です。

この連載では機関リポジトリ／オープンアクセス／学術情報流通に関連する動向のうち、今気になっているものを毎回、手短に紹介していきたいと思います。連載タイトルは当初「かたつむりはオープンアクセスの夢をみるか」とご提案いただいたのですが、自分の希望でこのタイトルにしていただきました。「OAは夢ではない！　ただの日常だ！」という意気込みを示したつもりですが、さあどうなるやら。

さて、第１回でご紹介するのは、アメリカで出てきはじめた州レベルでのパブリックアクセスの動きについてです。『情報管理Web』や『カレントアウェアネス・ポータル』を購読している方はご存知と思いますが、最近、カリフォルニア州で、州の助成を受けた研究成果のパブリックアクセスを義務付ける法案が審議されています。すでに州下院委員会は通過したそうです。

アメリカでパブリックアクセスといえばすでに実現している国立衛生学研究所（NIH）、実現に向け動いている大統領府科学技術政策局（OSTP）や連邦議会での法案審議など、連邦レベルの動きがこれまで専ら注目の的でした。しかしここに来てカリフォルニア州だけでなく、ニューヨーク州、イリノイ州でも州の資金による研究成果公開の動きが出てきています。実際にこれらの法案が実現したとして、どの程度の研究が影響を受けるのかはまだはっきりとはしませんが、カリフォルニア州の場合で研究助成関連の支出は3億2,700万ドル程度という話もあります。

法案自体の動きはもちろん、法案が通った場合にどの程度の論文が公開されるのか、今後さらに多くの州が参加し出すのかどうかなど、ちょっと注目しておきたい動きです。

参考リンク：
http://current.ndl.go.jp/node/23421
http://johokanri.jp/stiupdates/policy/2013/05/008504.html
http://www.sparc.arl.org/media/california-considers-state-level-public-access-pol.shtml
http://www.sparc.arl.org/media/new-york-considers-state-level-public-access-legis.shtml
http://www.sparc.arl.org/media/illinois-considers-state-level-public-access-polic.shtml

佐藤 翔　同志社大学社会学部教育文化学科助教
ブログ「かたつむりは電子図書館の夢をみるか」（http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/）管理人

次号予告
全力特集！
OAサミット
2013

facebook　http://www.facebook.com/DigitalRepositoryFederation
読者アンケート　http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf_inq.html
お便りお待ちしています　gekkandrf@gmail.com

【編集後記】今月号に引き続き、来月号でも新連載が始まります。お楽しみに！（MSOZ）